

介護福祉学科学生におけるボランティア活動推奨の取り組みの現状と課題

A report and problems of recommendation for volunteer activity in care work student

高橋 宏子

Hiroko TAKAHASI

合津 千香

Chika GOUZU

I. はじめに

四年生大学や短期大学、専門学校におけるボランティア活動は、以前からボランティアサークルが中心となり活動していた。また、学生が個人として学外のボランティアサークルや団体に所属し活動することもあった¹⁾。しかし、今日ボランティア活動は課外活動や学外の活動というだけではなく、高等教育機関における学習・教育の根幹にかかわる課題になってきている。多くの学生が豊かな生活体験を経験せず進学してくる中で、大学における学習と教育のあり方が問われている。そこで、大学と地域社会の連携を強め、科学と体験を結びつけることによって確かな力の形成が目指されている。その展開の方法として、1つは授業の中での扱い、2つにボランティアセンターの設置、3つに課外活動として推進されてきている²⁾。

本学介護福祉学科においては、学外からのボランティアの依頼を受けた学生部が、掲示板を通じて学生に情報を提供したり、教員個人が依頼に対し、直接学生に対して適任者を探すなどの橋渡し役を担っていることが多い。また、何年か前には、ボランティアサークルが存在し、学外からのボランティアの依頼をそのサークルに持っていくと、すぐ適任者が見つるような学生の窓口が存在したとのことであるが、最近はその窓口を学生部または教員が行わないと、なかなか適任者が見つからないのが現状である。ボランティア活動を単位として認めるという動きがある中で、本来の自主的な、自由な活動を阻むことになるのでないかということで、まだ授業の一環としては位置づけられてはいない。

しかし、平成15年度に学生に対するボランティア活動の現状を把握するためのアンケートを行ったところ、ボランティア活動の学びとして、“実習のときとは違った視点から現場を見ることができた”、“実習では体験できなかったことを経験できた”、“ボランティアの存在の重要性を感じた”、などの実習には無い現場からの学びが多いことがわかった。そこでより多くの学生を、より多くの学びの場に結び付けられないかということで、平成16年度からボランティア活動を学科として推奨し始めた。それらの支援を通して、学生がどのような場で、何を学んでいるか、またボランティア活動に対する学生の考えを聞き、短大としてボランティア活動をどう支援していくべきか、その課題を考えたい。

II. 方法

1. 平成16年4月にボランティア活動推奨として目的、目標とする時間、活動参加の方法を明らかにした個人のボランティアカードを作成し、学生個人に配布し、説明し同意を得た。

1) 目的

- ① ボランティア精神である自由性、自主性、自己責任を学ぶ。
- ② さまざまなボランティア活動を通じて、広い視野や社会性を身につける
- ③ 学校生活や実習で学べない場や分野を自主的な活動を通じて体験できる
- ④ 就職活動に主体的に取り組む機会とする

2) 目標とするボランティア活動時間

1年次はI期実習終了後から春休みまでの間の24時間以上を、2年次は卒業までに16時間以上を、また1、2年次あわせて40時間を目標と掲げた。

3) 活動参加の方法

① 施設、地域、関係機関から学校に直接依頼があったもの（主に夏祭りや外出などの行事的なもの） ② 実習施設からのボランティア受け入れ簿によるもの（実習指導者会議においてボランティア活動推奨の取り組みを説明し、実習施設において学生ボランティアとして受け入れ可能な内容や日時を明記して送っていただいたものをリストとした） ③ 市町村社会福祉協議会のボランティアセンターなどを通じて募集があったもの ④ 学生が個人で希望するもの、以上のいずれかの方法を挙げた。①に関しては、学生部掲示板に掲示し、または担当教員が呼びかけを行い、参加希望学生は募集期限までに学生部で必要事項を記入し、学生部から取りまとめて施設や主催者に連絡していただいた。代表学生は依頼先と必要時連絡を取り合った。②、③については、学生が学生部から情報を得て、直接連絡を取り、活動が決定したら学生部にボランティア届けを提出させた。④については、学生が活動を希望する依頼先に自分から問い合わせ活動が決定したら学生部にボランティア届けを提出させた。どの場合も学生が自主性と責任の下で行動し、参加を予定していたボランティアを欠席する場合は、必ず事前に施設や主催者に自分で連絡をとるよう指導した。ボランティア活動中、事故やトラブルが生じた場合は担当者に指示を仰ぎ、登校したら直ちに学生部と担当教員に連絡を入れさせるよう指導した。ボランティア活動参加者は必ずボランティア保険に加入することを説明し、学生の自由意志のもとに取りまとめて年度初めに教員が申し込んだ。ボランティア活動終了後には、「ボランティア個人カード」に施設の印またはサインをいただき、ボランティアを行った内容や感想等を記入するよう指導した。施設のサインなどをもらえなかった場合は後日教員がサインを行った。

2. 各学年とも4月・5月に、ボランティアの基本理念や心構え、遵守事項を説明したオリエンテーションを行った。

3. 平成16年度のボランティア活動の個人カードを回収し、実態を把握した。

1) 活動日時 2) 活動した場 3) 活動時間 4) 活動した累積時間 5) 活動の内容及び感想

4. 平成17年11月に学生に対してアンケートを実施し、ボランティア活動の実態と学生の思いをまとめた。

1) 活動の有無 2) 活動回数 3) 活動した累積時間 4) 活動内容 5) 活動のきっかけ 6) 活動を行ってみたいの感想 7) 活動を行わなかった理由 8) これからの活動の意思 9) 活動しなかった学生が考えるボランティア活動実施の条件

Ⅲ. 結果

1. 平成16年度のボランティア活動実態（平成16年5月～平成17年3月）

学生の個人カード回収により、以下の内容をまとめた。

1) ボランティア活動時間

1時間でも活動した学生は、1年生では22名（21.2%）、2年生では45名（45.0%）であり、2年生のほうが多かった。また1年間のボランティア活動目標時間を1年次は24時間、2年次は16時間と学科としては推奨したが、各学年の目標時間数に達していた学生数は、1年生10名（9.6%）、2年生22名（22.0%）で、ボランティア活動を1時間でも行った学生の中での割合は45.5%、2年生は48.9%でともに半数弱であった。また累積活動時間の多い学生は1年生では143.5時間、2年生では56時間にも達していた。まったく活動に参加していない学生は、1年次では8割弱、2年次では半数にいたっていた。

2) ボランティア活動した延べ件数及び活動月

1年生は76件、2年生は117件であった。また、活動した月は1年生、2年生ともに8月が最も多かった。次いで2年生は7月、9月、6月、11月、5月の順で夏休み前後に集中していたが、1年生は3月、12月、6月、9月、7月の順で冬季や年度末にも行っている学生もいた。

3) ボランティア活動した場

1年生では、通所介護、特養、病院、地域、老健、地震被災地、身障施設の順で、2年生では老健、身障、特養、社協、地域などの順で、2年生のほうが活動場所が多かった。

4) ボランティアの活動内容、感想など

参考資料より、ボランティアを行った感想の中で多いのは、“利用者は行事を楽しみにしている” “実習では経験できないことを経験できた” “利用者とともに楽しめた” “利用者にとって家族は大切であることを再認識した” “地域の方と触れ合うことができ勉強になった” など、肯定的に捉えている感想が多かった。

2. 平成17年度のボランティア活動実態とボランティア活動に対する学生の思い

平成17年11月に1年生、2年生に対し、アンケート調査を行った。回収率は1年生90名（87.4%）、2年生84名（79.2%）であった。高校時代にボランティアを経験したことのある学生は1年生では65名（63.1%）、2年生では51名（48.1%）であった。

1) ボランティア活動の有無、回数および時間

ボランティア活動の有無については、活動した学生は、1年生では48名（46.6%）、2年生では61名（57.5%）であり、2年生のほうが多かった。また、平成16年度よりも1年生も2年生も多かった。活動回数については、1年生は1-2回が31人（64.5%）と最も多く、次に5回以上10名（20.9%）であった。2年生については、1-2回38名（62.3%）、3-4回17名（27.9%）であった。各学年の目標時間数に11月現在達していた学生数は、1年生14名（13.6%）、2年生24名（22.6%）であった。

2) ボランティア活動のきっかけおよび活動の場

活動のきっかけを自由解答で尋ねたところ、最も多かったのは1年生では、学習に役立

つから33名、先生に薦められたから11名、就職に役立つから9名、施設に頼まれたから9名、学習に役立つから6名、であった。また、2年生では就職に役立つから24名、実習に役立つから13名、学習に役立つから、先生に薦められた、ともに12名、施設に頼まれた9名の順であった。その他として1年生では、親に薦められた、友達に声をかけられた、ゼミとして参加した、2年生では、何事も経験と思い参加した、その施設が好きだから参加したなどの記述があった。

また、活動の場は1年生では施設の行事の手伝い、グループホームでの話し相手、デイサービス、障害児関係施設、地域（笹賀地区会食会）、障害者施設などで、2年生では施設の行事の手伝い、グループホーム、知的障害児・者施設、病院、地域（笹賀地区会食会）など平成16年度と同様に多岐にわたっていた。

3) ボランティア活動を行って初めての感想

1年生、2年生ともに、学習に役立った22名、で最も多く、次いで1年生では実習に役立った15名、2年生では就職活動に役立った15名、実習に役立った9名、の順であった。その他の記述の中には、1年生には、障害児と高齢者の関わり方の違いがわかった、喜んでもらえた、自分から何かをすることは楽しかった、授業で習っていないことを学べた、実習では聞けないことを職員に聞いた、行事の実際を知った実習施設とは違った施設で違った雰囲気を感じた、利用者の違う面を見ることができた、将来ここで働きたいと思った、などがあった。また2年生では、高齢者とのコミュニケーションのとり方を学んだ、実習後の施設で実習では見られない施設生活を見ることができた、たくさんの方に関わって楽しかった、今まで経験できなかったことが経験できた、施設の雰囲気を知ることができた、ゼミで発表することの楽しさを味わえた、今まで会ったことのない障害の方と接することができた、実際に動いたほうが覚えられる、実習後であったので実習のお礼ができたのではないかと、利用者に関わることで利用者の気持ちを知ることができた、就職活動に結びついた、たくさんの方と接していろいろな関わり方がわかった、実習にはない気楽さがあって楽しめた、などの感想があった。

4) ボランティア活動を行わなかった理由

平成17年5月から11月までの間にボランティア活動を行わなかった、と答えた学生は、不明な学生も合わせると、1年生では42名（40.8%）、2年生は23名（21.7%）であった。平成16年度にボランティア活動を行わなかった学生は1年生82名（78.9%）、2年生55名（55%）と17年度のほうが少なかった。平成17年度の2年生は平成16年度の1年生にあたり、1年のときは活動しなかった学生が多かったが、2年生になって活動する学生が増えたことが考えられる。ボランティア活動を行わなかった理由を聞いたところ、1年生では、場所がわからない、時間と場所の都合が合わなかった、忙しい、知っているところではなかった、という声が聞かれ、2年生では、時間が無い、希望しても人数が多くてできなかった、などの意見が新たにあった。

5) 活動しなかった学生が考えるボランティア活動実施の条件

ボランティア活動をまったく行わなかった学生にどんな条件が揃えば活動できるか、尋ねたところ、1年生では、学校から近いところであれば、地元であれば、自分でもいける距離であれば、知っているところであれば、気持ちが前向きになれば、身体障害者施設でしたいので機会があれば、2年生では自分の家に近ければ、時間と場所が正確にわかり自分の都合と合えば、バイトを減らせば、などの意見があった。

IV. 考察

1) ボランティア活動推奨による学生の積極的な取り組み

この2年間の学科としてのボランティア活動推奨の取り組みにおいて、16年度は個人カードの回収、平成17年度においてはアンケート調査という方法で取りまとめたところ、学科としての活動の推奨によるものか否かは不明ではあるが、平成16年度よりも、平成17年度のほうが参加する学生数が増えた。累積時間が目標時間の5-6倍に達する学生もいて、活動を積極的に行う学生は教員が想像している以上に行っており、同一箇所でも継続的に行っている学生もいることがわかった。また、ボランティア活動を行った学生数が2年生のほうが1年生に比べて多いのは、実習を何回か経験して現場に慣れたことによって自主的に活動する意欲が生まれてきたのか、また就職活動など将来を見越した学生自身の目的が明確にあることが予想される。就職活動目的が主であって、本来のボランティアの意味合いが違っても感じられるが、個人カードの感想や反省から“楽しめた”“新たなことを発見できた”“学ぶことが多かった”などという前向きな記述が多く、実習同様、体験学習としてその効果は軽視できない。介護福祉教育における実習の機会は、人間関係および、自己を成熟させる最高の機会である。今まで体験できなかった貴重な体験が豊富にある。自分よりも年配でありながらも自分たちの支援を待ってくださっているという期待される立場に立たされる体験、自分中心に生きてきたが相手の身になって考えなければならないという体験、何度か経験する実習は、どれだけ自分が成熟してきたかを見つめるよい機会となると思われる。ボランティア活動も自主的で、自由で責任ある行動をもって、広い視野や社会性を身につけたり、学生生活や実習などでは学べない場や分野を活動を通して体験することを目的にしていたので、その目的は達成できたと思われる。実習は評価されるという緊張感が常に生じるが、ボランティア活動は評価が無いだけに、気軽にも楽しめることにもつながる。緊張感が軽減された状態であるから、より利用者に近づくことができ、利用者の思いなどにも触れられるのではないかと思う。

2) ボランティア活動に至らない理由

ボランティア活動を行った学生はそのような効果が少なからずあったと思われるが、活動しなかった学生は1年生、2年生で半数以上いることはとても残念なことである。まったく行わない学生については、強制的に働きかけることは、ボランティアの本来の目的に沿わないが、活動に参加できなかった理由を確認し、改善できることが無いのか検討する必要がある。ボランティア活動をしなかった理由には、1年生では場所がわからない、時間と場所の都合が合わなかった、忙しい、知っているところでなかった、2年生では時間が無い、希望しても人数が多くてできなかったなどの意見があった。在籍学生の中には、隣接市町村から電車等で1時間以

上かけて通ってる学生も多く、また1年生は車等も所持しないなどの交通の往復の問題もあるのかと思われる。また、ボランティア活動をしなかった学生に対して、どんな条件が揃えばボランティア活動ができるかを問いかけたところ、1、2年生とも、学校から近いところであれば、地元であれば、自分でもいける距離であれば、知っているところであれば、が聞かれたことにより、往復に要する時間や交通手段が少なからず関与している。また、時間と場所が正確にわかり、自分の都合と合えば、気持ちが前向きになれば、身体障害者施設でいたいなど、ボランティア情報がより広く深く伝わり、学生個々の条件にあうことによって学生の活動もより多くなるのではないかとも思われる。

3) ボランティアセンター設置への期待

本学における学生の自主的なボランティア活動をさらに推進するためには、本学内にボランティアセンターを設置することが不可欠である。ボランティアセンターの役割としては、ボランティア活動に関する情報の収集と提供、ボランティア活動希望学生と活動の場との連絡調整、ボランティア活動に関する相談・助言、ボランティアの養成、他機関との連携、ボランティア活動に関する広報などである。今まで学生部や各教員に個々に依頼された外部の施設・関係機関ニーズからのニーズをボランティアセンターに集約し、情報提供し、それぞれの学生と依頼ニーズをコーディネートする。そしてボランティア活動上の学んだことや疑問に思ったことを話し合ったり、相談して、次の活動につなげていくという役割が期待されている。「条件さえ整えば活動に参加したい」といった学生への窓口となると同時に、ただお手伝いに行くのではなく自分の学びや感じ方を振り返り、新たな活動にしていくための学生間の交流の場を確保することが重要なのである。また、ボランティアセンターにはボランティアコーディネーターという専門職員を配置することによって初めてその機能を発揮することとなる。コーディネーターはボランティアセンターに常駐し、上記の業務を行う。

学生のボランティア活動は、在学期間だけで活動が終わってしまい、継続性に欠けるという面があり、施設での活動に比して在宅でのニーズに応える活動は困難であると考えられるが、学年間の縦のつながりによって1つの活動を引き継いでいくことも可能である。筆者が〇市ボランティアセンターのボランティアコーディネーターとして、コーディネートした事例では、多動性の自閉症児の遊び相手として本学の学生が、後輩に活動を引き継ぐことにより、十数年間継続してその子の成長とその家族を支えた。ボランティアセンターの設置により、この例のような地域の在宅ニーズに継続的に対応でき、その活動の蓄積を引き継いでいくことが可能となると考える。このように、本学のボランティアセンターが地域のボランティアセンターとしても機能し、地域の人々が気軽に立ち寄って、介護や子育て等についての相談ができ、学生が地域の一員としてその支援活動に関わることができるような体制をめざしていくべきであろう。

ボランティアセンターの設置とこれに関わる活動は学科を超えた学生間、教員間の交流と協働活動につながると同時に、地域住民との交流・協働の場となり、地域社会とともに歩むことができる短大としての第一歩の実践となると考える。

V. まとめ

今回、介護福祉学科として学生のボランティア活動推奨の取り組みを振り返り、これからの短大としての学生のボランティア活動への支援の課題を考えてきた。介護の学びの基礎は人間

関係であるから、介護を支える学生自身が人間的に成熟しなければならない。体験学習は知識と技術の学習とともに、人間性を育成するものである。ボランティアをやって、“実習の時とは違った視点から見ることができた” “実習では経験できなかったことが経験できた” “地域の方とふれあうことができ勉強になった” など、実習では学べない、新たな気づきが多い。実習期間、実習施設など制限が多い中で、ボランティア活動は自由に、自主的に、自分を高めることができる体験学習ということができるところであろう。よりきめ細かい情報の提供によって、より多くの学生がボランティア活動に積極的に取り組んでほしいところである。ボランティア活動を積極的に行っている学生の中には継続的に関わっている学生もいた。また1回でも行った学生においてもその学びは大きい。その具体的な内容や感想を文字にし、新聞などにまとめ、全学科に配布するなどすることが学生の励みや意識変革となって、さらなる積極的な活動にもつながるのではないかと思われるので取り組んでいけたらと思う。

VI. 参考文献

- 1) 日本福祉教育・ボランティア学習学会機関誌編集委員会；福祉教育・ボランティア学習研究年報Vol. 1 1996 福祉教育・ボランティア学習の歴史と理念、東洋堂企画出版社 1996.
- 2) 日本福祉教育・ボランティア学習学会機関誌編集委員会；福祉教育・ボランティア学習研究年報Vol. 7 2002 ボランティアネットワークと大学の変容の可能性、東洋堂企画出版社 2002.

VII. 参考資料

参考資料1 平成16年度 ボランティア個人カード回収結果

	1年生 106名	2年生 100名
ボランティア活動を1時間でも行った学生数	22名	45名
行った述べ件数	76件	117件
活動した月	8月26件 3月14件 12月9件 6月・9月8件 7月7件 11月6件 10月5件	8月41件 7月24件 9月16件 6月15件 10月12件 11月5件 5月5件
1人の学生が行った累積時間	3～143.5時間	3～56時間
活動した場	通所介護 42件 特養 22件 病院 18件 地域 17件 老健 9件 地震被災地 4件 身障 1名	老健 26件 身障 19件 特養 19件 社協 18件 地域 11件 障害者協会 7件 共同作業所 7件 養護学校 3件 地震被災地 3件

参考資料 2 平成17年度 ボランティア活動に関する学生のアンケート結果

		1年(90名)	2年(84名)
性別	男	18	18
	女	72	66
高校でのボランティア経験	あり	72.2% (65)	60.7% (51)
	なし	27.8% (25)	39.3% (28)
平成17年度ボランティア経験	あり	53.3% (48)	72.6% (61)
	なし	46.7% (42)	27.4% (23)
ボランティア活動回数	1-2回	64.5% (31)	62.3% (38)
	3-4回	14.6% (7)	27.9% (17)
	5回以上	20.9% (10)	9.8% (6)
活動時間	~5時間	29.7% (14)	31.1% (19)
	6-10時間	29.7% (14)	29.5% (18)
	11-24時間	10.9% (6)	29.5% (18)
	24時間~	29.7% (14)	9.9% (6)
活動のきっかけ (延べ数)	実習に役立つから	33	13
	学習に役立つから	6	12
	就職に役立つから	9	24
	先生に薦められた	11	12
	施設に頼まれた	9	9
	掲示板で見た	4	5
	その他	5	9
活動してみた の感想 (延べ数)	学習に役立った	22	22
	実習に役立った	15	9
	就職活動に役立った	6	15
	その他	5	8
ボランティア活動を行わなかった理由 (延べ数)	興味なし	17	2
	クラブが忙しい	1	1
	アルバイトが忙しい	19	5
	ボランティアの内容に関心が無い	4	4
	その他	21	11
今後行いたい か	はい	33	20
	いいえ	9	3

記述

○ボランティア活動の場

1年生；施設の行事の手伝い、グループホームでの話し相手、デイサービス、障害児関係施設、地域（笹賀地区会食会）、障害者施設など、

2年生；施設の行事の手伝い、グループホーム、知的障害児・者施設、病院、地域（笹賀地区会食会）

○ボランティア活動のきっかけ（その他記述）

1年生；親に薦められて、友達に声をかけられた、ゼミとして参加した

2年生；何事も経験と思い参加した、その施設が好きだから参加した

○ボランティアを行ってみての感想

1年生；障害児と高齢者の関わり方の違いがわかった、喜んでもらえた、自分から何かをすることは楽しかった、授業で習っていないことを学べた、実習では聞けないことを職員に聞ける、行事の実際を知った。実習施設とは違った施設で違った雰囲気を感じた、利用者の違う面を見ることができた、将来ここで働きたいと思った

2年生；高齢者とのコミュニケーションのとり方を学んだ、実習後の施設で実習では見られない施設生活を見ることができた、たくさんの方に関わって楽しかった、今まで経験できなかったことが経験できた、施設の雰囲気を知ることができた、ゼミで発表することの楽しさを味わえた、今まで会ったことの無い障害の方と接することができた、実際に動いたほうが覚えられる、実習後であったので、実習のお礼ができたのではないかと、利用者に関わることで、利用者の気持ちを知ることができた、就職活動に結びついた、たくさんの方と接して、いろいろな関わり方がわかった、実習には無い気楽さがあった楽しめた

○ボランティア活動をしなかった理由

1年生；場所がわからない、時間と場所の都合が合わなかった、忙しい、知っているところでなかった、カードを渡してのボランティア半強制であり、受ける側にとって失礼

2年生；時間が無い、希望しても人数が多くてできなかった

○どんな条件が揃えばボランティア活動ができるか

1年生；学校から近いところであれば、地元であれば、自分でもいける距離であれば、知っているところであれば、気持ちが前向きになれば、身体障害者施設でいたい

2年生；近ければ、時間と場所が正確にわかり、自分の都合と合えば、バイトを減らせば

参考資料3 平成16年度 介護福祉学科1年生 ボランティア活動内容一覽

平成16年度 介護福祉学科1年生 ボランティアカード 集計		ボランティアカード		集計	
実施月	実施時間	実施時間	場所	内容・感想	
A	6	6	地域	笹賀地区食会、会場設営、片付け、アトラクション	
	8	6.5	デイサービス	話し相手、お茶入れ	
	8	6	デイサービス	話し相手、お茶入れ、入浴介助	
	8	6	デイサービス	話し相手、お茶入れ	
	10	3.5	地域	笹賀地区食会、会場設営	
	11	7	地震被災地	被災した家の片付け(壁の撤去、家具の片付け)	
	11	6	地震被災地	倒壊した家の瓦撤去	
B	9	8	デイサービス	入浴後のドライヤー、食事の配膳、利用者との会話ができてよかった	
	9	9	デイサービス	入浴後のドライヤー、食事の配膳、高瀬ダムへの見学介助	
C	8	3	老健	夏祭りの利用者の誘導、職員の手伝い 利用者さんも充実しているように思った	
	8	3	老健	日本舞踊の方がきいて聞かせてもらった。利用者さんもとても楽しんでいるようだ。	
	8	2.5	老健	前とちがう階で夏祭りの利用者さんの誘導、利用者さんとても楽しんでいるようだった。	
	8	2.5	老健		
D	6	5	地域	笹賀地区食会、高齢者のかたからいろいろな話を聞くことができた。	
	7	2	特養	夏祭り手伝い、利用者さんたちは、久しぶりに家族との時間を過ごしてとても楽しそうだった。	
E	9	6	特養	話をしてくれる利用者がいてうれしかった。コミュニケーションを大切にしたいと思う、喫茶の時間が有り、利用者がとてもうれしそうにコーヒーなどを飲んでくれた。	
	9	6	特養	天気の良いなかで種まきがあった。昔のことを懐かしそうに話してくれる利用者があり、話を聞かせてくれて嬉しかった。	
F	8	4	病院	シーツ交換を行い、利用者のかたと1時間半くらい話をした。	
	8	4	病院	朝から昨日話をした方と会話をし、その方のハバも見学させてもらった。	
	8	8	病院	上と同じ	
	8	8	病院	最終日、今まで一緒に過ごしてきた方と別れるので少しさみしかった。	
G	8	7	デイサービス	利用者にあいさつして、お茶を配った。あいさつすると自然に会話することができた。	
	8	7	デイサービス	利用者同士の会話に入っているのか迷ったので、入らず遠くでみていた。	
	8	7	デイサービス	テーブルやイスはそれぞれ利用者の体型に合わせて、調節してあった。耳の遠い利用者とのコミュニケーションは耳元ではっきりやらなければならないいけないと思った。	
	3	7	28いきがいセンター		
H	7	8	特養	夏祭り、わたあめやかき氷など利用者さんが食べられるものを用意してあげた。催しものは子どもから大人まで楽しめる遊びで、いつもと違った環境は良い刺激になると思った。	
I	12	1.5	老健	施設のバスで店まで行き、デイサービス利用者の要望に答え、買いたいものを見たりして店内を回った。久しぶりな人と話してくれる人もいて、とても楽しかった。	
	12	1.5	老健	お弁当を買いたいという利用者さんと一緒に食料品売り場に行き、カゴを持ちながら車イスを押すので大変だったが、利用者さんの笑顔のお陰で楽しいボランティアになった。	
J	7	6	特養	夏祭りの利用者の移動、食事介助。子どもたちの太鼓、雑踏店、ベットのふれあいなどがあつた。食事介助の良い勉強になったし、施設の役に立てて良かった。	
	10	6	地域	笹賀地区食会、準備、受付、片付けなどのお手伝いをした。笹賀の地域の人の話を聞いて良かった。また、参加したい。	
K	8	8.5	特養	利用者の誘導、食事介助、掃除などを中心にお手伝いした。ボランティアの賑わいを見たり、納涼祭にも参加させてもらったけど、利用者の方はみんな楽しそうだった。また、利用者の方とたくさん会話でき、楽しかった。	
	12	12	12日間	また、利用者の方とたくさん会話でき、楽しかった。	
L	6	5	地域	スポーツ大会の競技補助、障害者の方とコミュニケーションをとったり、めずらしいスポーツの体験をすませた。いろいろな方とコミュニケーションがとれて楽しかった。	
	8	7.5	デイサービス	レクレーション、配膳、利用者との会話。利用者さんが夏祭りに体験をしたり、レクをして身体をたくさん動かして、「楽しい」と言っていたのでよかったです。	
	8	7.5	デイサービス	利用者の方と雑巾用の布を切ったり、おもちゃを使って遊んだ。おもちゃがわづらしかつたので、利用者さんがとても楽しそうに何度もやっていた。	
	8	7.5	デイサービス	何かをしないといけないと落ち着かない利用者の方と一緒にカップを洗ったり、箸を拭いた。きょうは、祖母が来ていて、少し恥ずかしかった。	
	8	7.5	デイサービス	お盆ということで利用者が少なかった。利用者の方とたくさんコミュニケーションをとった。	
M	8	8	デイサービス	利用者とのコミュニケーション	
	12	3	デイサービス		
	12	3	デイサービス		
	1	3	デイサービス		
	1	3	デイサービス		
	1	8.5	身障		
N	7	6	特養	夏祭りの利用者さんの移動、食事介助。外での子どもの太鼓の朝顔、屋台での食事、ベットのふれあいなど、食事介助の勉強になった。施設の役にたてて良かった。	
O	8	2	特養	週に2回のはれあい喫茶で利用者の介助やコミュニケーション。利用者の方がよく笑っていて、こうしてお茶会できるとは嬉しいなと思った。	
	9	7	老健	女書祭りの利用者の移動、コミュニケーション、片付け。いろいろな料理や飲み物があった。とても楽しかった。	
P	7		特養		
Q	10	6	地域	東海車椅子バスケット審判	
R	6	7.5	地域	県障害者フライングダンス大会。受付、誘導、副審。参加者とても楽しそうだった。障害に關係なく楽しめる場があることは、大切だと思った。	
	3	2	地域	ハリアー一絵本展、展示室の監視。子どもから大人まで大勢の人が観に来て楽しんでくれた。	
	3	4	地域	視覚障害者や知的障害者のための絵本の読み聞かせ。	

S	6~9	77	地域	パッチ・アダムス・ユーモアセッション振興委員会、実行委員会のなかり知り合った福祉関係者から、福祉現場の難しさやプロとしてのポイントを学ぶことができた。
	11	4	地震被災地	被災地での託児。地震災害という非日常のなかで日々の生活を続けている地元の方たちの姿に頭が下がる重いなった。
	12	4	地域	メイク・アップ・ウィッシュ野暮子さんの講演会
	3	4	地域	バリアフリー絵本展。展示室の監視、案内。知的障害の方が入場され、反応をじかに見ることができた。
T	3	4	93 地域	障害のある方の来場が少なく、障害者の外出が難しい現実があるのではないかと考えた。
	6	6	地域	笹賀地区ふれあい会食会。会場設営や送迎など協力してできたので良かった。
	7	3	特養	夏祭り。焼き鳥、焼きそばの手伝い。利用者さんや家族と食事したり、お話しができて良かった。
	8	8.5	在宅福祉支援センター	入浴、食事、レクへの移動介助やライヤー、お茶出しなどした。掃除の時には何もしないから分からなかったが、自分から聞けば良かった。
	8	8.5	在宅福祉支援センター	送迎に行ったり、お茶出し、お茶出し、入浴時の着脱、おむつ交換など、職員の人と一緒にやらせてもらえて良かった。
	10	8.5	地域	笹賀地区ふれあい会食会。席まわりの案内や食事の配膳を行った。協力してできたので良かった。
	11	4	地域	お茶出し、カランダール、ライナーなど。拭き掃除を一生懸命やったり、職員さんに「最後までやってもありがとう」と感謝され、嬉しかった。
	12	8.5	デイサービス	お茶出し、カランダール、ライナーなど。拭き掃除を一生懸命やったり、職員さんに「最後までやってもありがとう」と感謝され、嬉しかった。
	3	8.5	老健	入浴の介助の児童、着脱、食事介助、ベッドメイク、排泄介助などを行った。車いすへの移乗の時大変な状況だった。
	4	8.5	老健	入浴の介助の児童、着脱、食事介助、ベッドメイク、排泄介助などを行った。車いすへの移乗の時大変な状況だった。
	6	6.5	地域	県障害者ライティング大会。受付、誘導、リレー、後付け。障害者であっても、秘めた力をもっているものでそれを発揮できて、楽しんで頂けて良かった。
	11	4	10.5 地震被災地	県障害者ライティング大会。受付、誘導、リレー、後付け。障害者であっても、秘めた力をもっているものでそれを発揮できて、楽しんで頂けて良かった。
	6	7.5	地域	県障害者ライティング大会。受付、誘導、リレー、後付け。障害者であっても、秘めた力をもっているものでそれを発揮できて、楽しんで頂けて良かった。
	8	15(2日間)	デイサービス	夏祭りでジャンケンしておかしのつかみ取りやコーナードレスアップ大会。午前中は綱引き、大玉ころがしなどの団体競技。午後のフライングディスクは選手を呼びに行った。立ちっぱなしだったが、来年も行きたい。
	8	37, 5(5日間)	ダイケア	高校の時に継続して来た。5日間の帰郷後に利用者さん「又来るの待ってるね」と言ってもらえてとても嬉しかった。この気持ちを「やりがい」に変えてボランティアを続けたい。
	9~12	18(5日間)	デイサービス	午前中だけ、利用者さんやスタッフと関わって個性に合わせて声かけが必要だと改めて思った。コミュニケーションは難しいけれど、受容し、相手を尊重して利用者さんと接したい。
				学校の帰りに来た。的当てゲームで当たったときのうれしさは変わらないのだと思った。会話している時の笑顔が良かった。
				歩行困難の方のイレ誘導で常に支えているなければならないところや手すりの使い方が勉強になった。
				午前中だけ、久しぶりに来た。入浴後、水分補給を行い、うとうとする方もいて、入浴は体力を使うので休んでおくべきなのかなと思った。
	12~1	35(10日間)	病院	病院でのボランティアは初めて。声をかけて、掃除、利用者さんからの頼まれ事も自分で判断せず職員の方に伝えてもらうようにしようと思っただけで良かった。
				各部屋の掃除の時、利用者さんとの手と手をつなぐ話をした。声をかけて、掃除、利用者さんからの頼まれ事も自分で判断せず職員の方に伝えてもらうようにしようと思っただけで良かった。
				私の手で利用者さんの手を握られた。声をかけて、掃除、利用者さんからの頼まれ事も自分で判断せず職員の方に伝えてもらうようにしようと思っただけで良かった。
				朝行くと「いつもありがとうね」と言われた。当たり前のことをしただけでお礼を言ってもらい嬉しかった。利用者さんの一言一言で励ましてもらい元気になった。
				大晦日。自分の言動をもう一度振り返り、直していきたいと思った。この一年で学んだ事を無駄にしないように一つ一つの行動に責任をもってボランティアしていきたい。
				1月3日。年末年始入浴がなかったことで全身清拭と着替えを行った。声がけし、利用者の希望するよう一生懸命したが、悪いところもたくさんあったと思うので勉強したい。
				利用者さんの手を握り、会話していると「まだ行かないで」と言われ、嬉しくて泣いてしまった。忙しい仕事のなかでも利用者さんの言葉にゆとりと目を傾けることが大事だと思った。
				初めてトイレの介助をした。着替えの用意、ひげそりも行った。お湯をかける順番に気を配るなど、手際よく行えなかったが、たくさん学べた。
				体操の立ち上がり介助をどの程度支えていいか解らなかつた。9日間たくさん学んだ。職員さんや利用者さんにもたくさん学べた。今後も学んできた事を振り返りながらのこり1日行いたい。
				10日間のたくさん学んだ事も自分のためにも残しておきたい。折り返しを教えるようにしたい。折り返しを教えることも必要だと思っただけで良かった。
	14(4日間)		病院	久しぶりのボランティア。利用者さんに写真を見せていただいた。折り返しを教えるようにしたい。折り返しを教えることも必要だと思っただけで良かった。
				利用者さんや利用者さんにもたくさん学べた。今後も学んできた事を振り返りながらのこり1日行いたい。
				利用者さんや利用者さんにもたくさん学べた。今後も学んできた事を振り返りながらのこり1日行いたい。
				コミュニケーションをとりながら、各部屋の清掃を行った。自分のベッパにきた人の名前を全部書いていた。自分のベッパにきた人の名前を全部書いていた。自分のベッパにきた人の名前を全部書いていた。
	16(5日間)	143.5	ダイケア	今回は、利用者さんとの関わりを大切に、コミュニケーションが多くとれた良かった。自分のベッパにきた人の名前を全部書いていた。自分のベッパにきた人の名前を全部書いていた。
				折り返しを教えることで、仕上げの時間をとお手伝えいさせてもらった。壁に飾って利用者さんにも喜んでもらった。
				折り返しを教えることで、仕上げの時間をとお手伝えいさせてもらった。壁に飾って利用者さんにも喜んでもらった。
				足元の滑り防止は歩けなくなってしまうので少しでも滑り防止したいと思った。折り返しを教えることで、仕上げの時間をとお手伝えいさせてもらった。
				3月末で職員さんの移動があり、挨拶して終わる職員さんの目に涙がみえた。別れは寂しいけれど、また別のところでがんばってほしいという利用者の気持ちがあると思っただけで良かった。
				折り返しを教えることで、仕上げの時間をとお手伝えいさせてもらった。壁に飾って利用者さんにも喜んでもらった。

参考資料 4 平成16年度 介護福祉学科 2 年生 ボランティア活動内容一覧

平成16年度 介護福祉学科2年生 ボランティアカード 集計					
学生氏名	実施月	実施時間	累積時間	場 所	
				内容 感想	
1	9	6.5		老健	秋祭り。家族や子供たちも来ていてにぎやかな雰囲気だった
	10	7		宅老所	宅老所のボラははじめて。施設の高齢者とは違いとても生き生きしていた
	11	6.5	20	地震被災地	物資の仕分け作業と新聞配達を行った。目的目標を持って行動することが大事であることがわかった。
2	8	8		社協	夏祭り。一緒に楽しんだ
	8	1		中学校	中学生に中学校での学生生活などを講演した。難しい
	11	5	14	デイサービス	手話を通じて話が弾んでうれしかった。
3	6	8	8	県障害者協会	肉体的に疲れた。初めて開催されたので段取りが悪かった。実習前できつい
4	9	6.5		老健	秋祭りの介助。普段食べられないものが屋台であり楽しかった
	11	6	12.5	地震被災地	物資の仕分け作業と新聞配達を行った。離乳食やオムツなどたくさんのお物資が送られていて助けてくれる。新聞を通じての情報提供や交換が大切になることがわかった
5	7	6		共同作業所	夏祭りの手伝い。子供たちと触れ合うことができた。
	7	4		身障	夏祭り。利用者自身が企画している姿がよかった。
	9	3		地域	地域の高齢者との敬老会参加。一緒に楽しめた
	10	6.5	19.5	身障	IV期実習施設の秋祭り。楽しそうだった。
6	6	6		地域	地域の元氣なお年寄りと接するよい機会
	9	2.5		老健	でフイケアの方の散歩の介助。車椅子走行の難しさを感じた
	9	2.5		老健	利用者のぶどう狩りの介助。
	10	6.5	17.5	地域	学生の参加や催し物が多くにぎやかであった。耳の悪い方への座席の配慮も必要かと思う。手話の歌は心が温まった
7	6	7.5		県障害者協会	知的障害の方と初めて接した。障害を認識せず自然に接することが大切と感じた
	7	7.5		特養	夏祭りの介助。行事は利用者にとって楽しみの場である
	8	7		老健	夏祭りの介助。普段食べられないものを食べたり、いつも違う表情を見ることができた
	8	6.5		特養	グループホームでカレー作り。帰るとき見送りに来てくれたうれしかった
	9	8	36.5	特養	敬老会の介助。家族と食事ができるお祝いも増すのではないかと
	7	6.5		共同作業所	社協の夏祭り。お年寄りだけではなく子供の参加もあり接し方の違いを学んだ
	7	4		身障	夏祭りの介助。老人施設と身障の違いを感じた。家族の参加もあり楽しそうであった
	10	6.5	17	身障	秋祭りの介助。楽しそうであった
9	8	5		老健	夏祭り。利用者と職員が喜ぶ様子が見えてよかった
	8	2		社協	ふれあい祭りの会場づくり
	8	2	9	社協	ふれあい祭りの当日。地域の方が楽しめるようにお手伝いした。
10	8	4		老健	
	8	3		社協	
	8	7	14	社協	
11	7	8		特養	夏祭りの介助。地域の参加もありよかった
	8	3		身障	3期実習の夏祭り。実習内では経験できないことが多く勉強になった
	10	6	17	地域	日ごろ若い方と接する機会がないので大変楽しみにしているということであった。学園祭に出展したいといわれていた。
12	7	8		特養	夏祭りの介助。楽しそうであった。
13	8	3		特養	施設利用者の買い物介助。自分の好きなものを会に出かけられたのしそ。
	8	6		特養	利用者のおやつ介助
	8	9	18	特養	入浴の介助
14	6	6	6	地域	ともに楽しめた。文化祭にも着てほしい
15	6	6		地域	自立した高齢者と接する機会がよりよくなった
	7	2	8	社協	子供たちと接することがよかった
16	6	8		県障害者協会	
	8	5.5		身障	家族の参加で利用者が家族の一員であることが伝わってきた。利用者は1年間楽しみに待っていたことがわかった
	8	4.5	56	社協	地域福祉実習後のボラ。自主的な実習は深い学びが得られる。
17	8	7		特養	夏祭りの介助。雰囲気はともよよく楽しそうであった
	8	7		デイサービス	初めてだったので戸惑う場面が多かったが、楽しめた。笑顔が素敵だった
	8	7		デイサービス	いるいるの方の参加があたりくさん話すことができた。
	8	7		デイサービス	最高の参加人数がいた
	9	7		特養	秋祭りの介助。夏祭りよりもたくさんお方と接することができた。
18	7	5		老健	満足時のボラ。外出を通してレクリエーションの企画が多く楽しんでいるようだった。
	7	4		身障	III期実習後の夏祭り。利用者が喜ぶ様子が見れてよかった

8	4	老健	夏祭り。利用者が書ぶ様子が見れてよかった
9	3	地域	敬老会のアトラクション。ともに楽しめた。
10	6	22 老健	秋祭り。地域の方々が多かった。Ⅲ期実習の受け持ちの方と再会できた。
19	7	5 老健	遠足の介助。外は食事したり遊んだり楽しめると感じた。利用者にとっても楽しみのみである
20	7	5 老健	遠足の介助。外出は楽しみである
7	4	身障	夏祭りの介助。お祭りの雰囲気がとても良かった。楽しそうだった
8	8	老健	夏祭りの介助。施設の利用者だけでなく、デイの利用者も参加して楽しんでくれた
9	3	地域	元氣なお年寄りとの交流。一人暮らしの方は外に出る機会が大変だ
10	6	26 身障	秋祭りの介助。地域の方々も参加しており、雰囲気であった。
21	6	15.5 身障	一泊旅行のつきそい。家族とのふれあいや、旅行の楽しさを感じることができた
8	8	23.5 老健	夏祭り。利用者が書ぶ様子が見れてよかった
7	5	老健	遠足の介助。外は食事したり遊んだり楽しめると感じた
9	6.5	老健	Ⅲ期実習後の秋祭りの介助。綿あめは好評。地域とのふれあいがあつた
23	8	7 知的授産所	通所者と農園芸作業の準備と作業補助。初日緊張した
8	7	7 知的授産所	通所者とともに畑の草取り。暑くて大変だったが楽しかった
9	7	21 知的授産所	3日間多くの方とお話ができ楽しかった
24	9	7.5 デイサービス	リハビリのお手伝い。利用者の方から昔のことを学ぶことができた
25	5	7 身障	日帰り旅行の介助
6	6	地域	地域の高齢者との会食会参加。一緒に楽しめた
7	4	身障	夏祭りの介助。実習とは違った利用者の表情を見ることができよかつた
9	1	養護学校	知的障害の子とバスケや紙芝居などで交流した
10	6	地域	地域の高齢者との会食会参加。和太鼓を演奏し喜んでもらった
10	6.5	身障	実習施設の秋祭り。家族の来ない方は寂しそう
11	4	34.5 養護学校	知的障害の子と食事の準備。会食
26	7	2.5 特養	Ⅱ期実習の施設の夏祭り。ともに楽しめた。
7	4	6.5 老健	Ⅰ期実習の施設の夏祭。行事は利用者にとってプラスとなると感じた。
27	5	3 知的グループホーム	一緒に豚油の回収。楽しそうだった
8	8	11 社協	夏祭りの手伝い。利用者と一緒に楽しめた
28	6	5 地域	アトラクションが楽しかった。歌を覚えておくべきだった
8	5.5	身障	Ⅲ期実習後の夏祭り。実習で知っていたのでやりやすかつた
8	8	老健	夏祭り。ミキサー食に対応できる屋台がなくて残念
10	6	24.5 身障	秋祭り。地域の方々が多く来て楽しんでると思った
7	5	療養型	遠足の介助。外で食べたり話ができる機会は利用者にとっても大切
7	9	特養	夏祭り。屋台を担当。利用者とは花火のときだけであつたが、とても楽しそうであつた
8	12	26 身障	家族の参加とともに楽しめたようだ。3期実習後久しぶりに利用者に会えてうれしかつた
30	5	3 知的グループホーム	利用者で豚油改修の手伝い。楽しいようだった。家族の協力が重要と感じた
31	7	2 特養	Ⅲ期実習後の夏祭りの手伝い。
8	6	身障	夏祭りの食事介助
8	3	11 老健	夏祭りの移動。食事の介助
32	8	7 デイサービス	利用者の笑顔がとても良かった
8	7	7 デイサービス	利用者とても楽しんでいた。レクのゲームは面白かつた
8	7	7 デイサービス	誤嚥の場に出くわし驚いた。早く楽に対応することが必要と感じた
9	2.5	23.2 老健	デイケア利用の方と外出支援をした。利用者のほうが詳しくかつた
33	6	6.5 県障害者協会	障害者の方々の運動会。主催者とも話ができ勉強になった
7	3	9.5 特養	夏祭りの介助。家族がいない方は少々寂しそうだった
34	6	6.5 県障害者協会	障害者の方々が楽しそうだった。負けず嫌いであることがわかつた。
9	1.5	8 老健	外食の介助。喜んでた。
35	6	4 4 県障害者協会	途中までの参加であつたがとても楽しくできた
36	8	5 特養	夏祭りの手伝い。行事は大切だと感じた
9	7.5	社協	ふれあい広場のボラ。一緒に楽しめた
10	5	17.5 社協	ふれあい祭りの総合司会。緊張したがよい経験になった
37	8	3 老健	夏祭りの介助。外での食事だったので楽しそうであつた。
38	8	8 老健	夏祭りの手伝い。一緒に楽しめた
39	8	5 老健	夏祭り。利用者が書ぶ様子が見れてよかつた

40	8	14	19	特養	ユニットケアでのボランティアは初めてで充実していた。
41	8	3	3	老健	夏祭りの介助、外での食事が良かったようだ。
42	6	8		果臈者協会	多くの方と知り合うことができた。
	7	2.5	10.5	特養	夏祭りの介助。いつもと違う雰囲気は利用者にとって楽しみの一つである。
43	7	3	3	特養	夏祭りの介助。都合で家族がこられない方の介助を行った。楽しそうであった。
	7	8		老健	夏祭り。普段見せない笑顔が貰えたとおもう。
	8	8	16	老健	夏祭り。子供も多くとても楽しめた。
44	6	5		地域	笹貫地区との会食会。ともに楽しく過ごせた。
	8	6		特養	三朝実習後の夏祭り。ともに楽しめた。
	10	6		身障	秋祭り。利用者は楽しそうだった。
	11	4	21	養護学校	昼食会の調理の手伝い。ともに楽しめた。
45	6	19	19	身障	1泊旅行の介助。ともに楽しめた。